たくさりくるまどうまえ　いせき

田鎖車堂前遺跡

現地説明会資料　平成 28 年 11 月 20 日（日）

遺跡名：田鎖車堂前遺跡（たくさりくるまどうまえいせき）
所在地：岩手県宮古市田鎖第 11 地割車堂前地内
委託者：岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
事業名：宮古西道路建設事業
面　積：7, 405 ㎡
調査者：（公財）　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
担当者：福島正和・趙哲済（大阪市博物館協会より出向）
中村隼人・舩渡耕己

1　はじめに

田鎖車堂前遺跡の発掘調査は、宮古西道路建設事業に伴い、遺跡が広がると思われる約 20, 000 ㎡を対象として、事業によって失われる遺跡の記録を後世に残すためにおこなっています。昨年度、一昨年度に続き今年度も約 7, 000 ㎡を対象に 4 月から調査を開始しました。昨年度までの調査で縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が多くみつかっています。中でも、平安時代終わり頃（約 800 年前）と平安時代初め頃（約 1, 200 年前）の様子は、この地域を代表する遺跡であることを物語っています。さらに、今年度の調査でこれらを補強する多くの成果が得られました。

堀の断面は逆台形で、少なくとも一度は造り替えをおこなっています。断面右側には土塁の土が溜まっています。この堀に沿って土塁が築かれていた証拠です。

堀内部空間の掘立柱建物です。柱の穴が建物の形通りに並びます。写真手前と奥に１棟ずつありますが、２棟はとても近い位置にあるため同時に建っていないと思われます。

2　平安時代終わり頃の遺構と遺物

岩手では平泉に藤原四代の拠点が置かれた時代です。

【堀】昨年度みつかった堀の続きを確認しました。堀は西へ向けて延び、途中緩やかなカーブを描いて北に向きを変えています。さらに、堀の南西隅には橋がみつかりました。土橋（どばし）と呼ばれるもので、通路幅のみ掘り残して造られています。ここが西側出入り口だったようです。堀を埋めていた土を観察すると、堀に沿って内側に土塁（どるい）と呼ばれる土手が存在したこともわかりました。

【建物】堀内部空間では、掘立柱建物が複数棟みつかりました。掘立柱建物とは柱の穴を地面に掘り、柱を立てる構造の建物です。これらは建物平面形状などから現段階では堀と同時期の建物ではないかと考えています。

【井戸】掘立柱建物とともに堀内部空間に位置します。井戸の存在はここで日常生活が営まれていたことが想像できます。

【陶磁器】堀を埋めていた土の中からは現在の愛知県にある渥美窯や常滑窯産の陶器片がみつかりました。昨年度調査では中国産の陶器片や磁器片もみられます。

土橋は堀南西部隅に築かれています。堀を造る時、掘り残していることから設計段階で場所が決まっていたとみられます。ここは堀内部と外部を繋ぐ出入り口に当たります。

堀内部空間には井戸もあります。約３ｍの深さで、平面は長方形です。現在でもきれいな水が出ています。使わなくなった後に埋め戻されています。

3　平安時代初め頃の遺構と遺物

岩手では胆沢城・志波城・徳丹城などの城柵（じょうさく）が設置され、律令政治が東北北部へ本格的に進出した時代です。

【竪穴住居】今年度の調査だけでも80棟以上の住居がみつかりました。岩手県沿岸地域最大規模の集落と言えそうです。

【土器】この時代に特徴的な土師器（はじき）や須恵器（すえき）と呼ばれる９世紀代の土器が多くみつかっています。

◆平成 27 年度調査

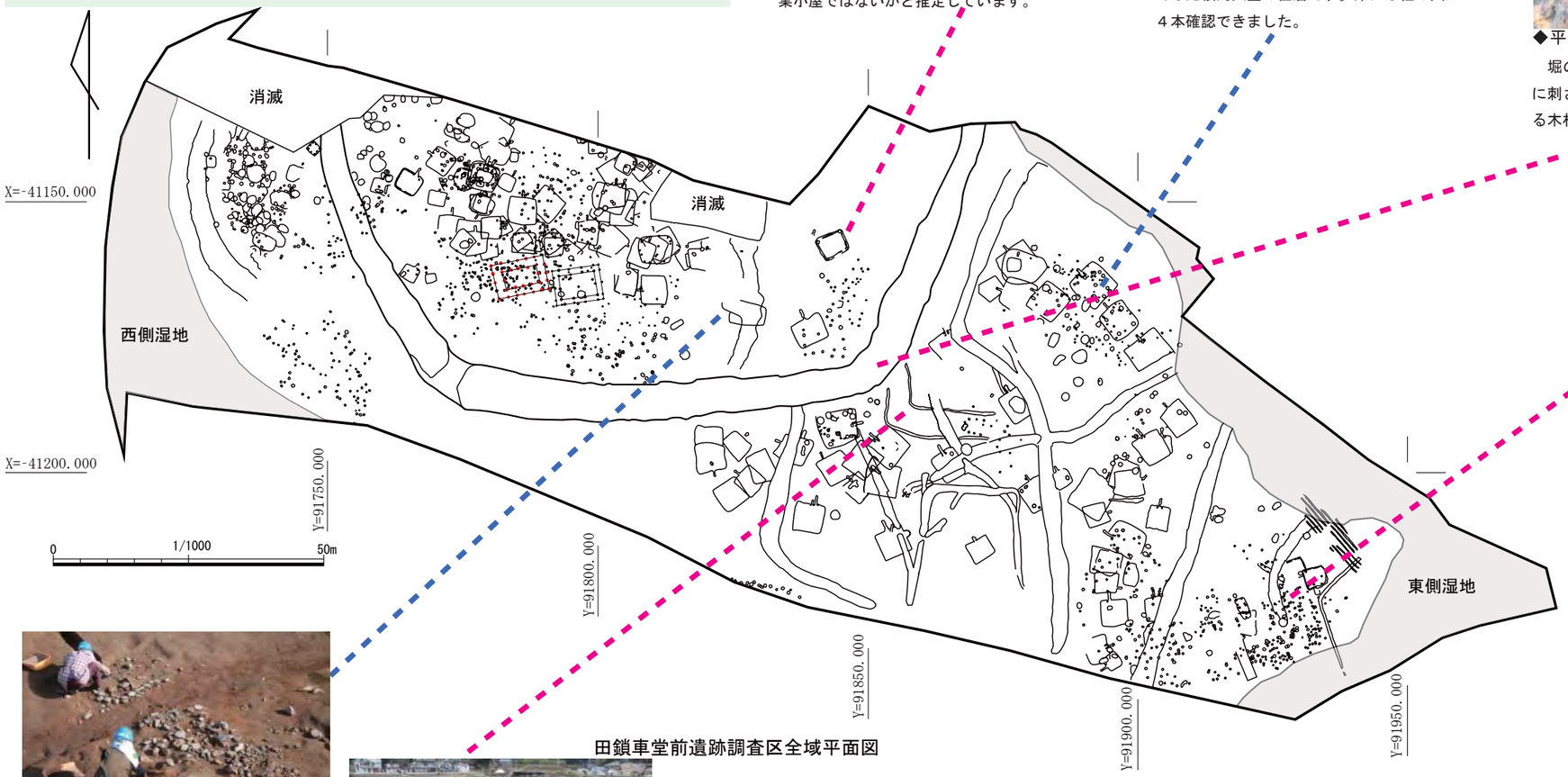
平安時代終わり頃の竪穴建物です。四隅に柱の穴が認められます。現段階では倉庫や作業小屋ではないかと推定しています。

◆平成 27 年度調査

平安時代初め頃の竪穴住居です。この遺跡では比較的大型の住居です。床には柱の穴が４本確認できました。

◆平成 27 年度調査

堀の南東の曲がり角で長さ２ｍの杭が堀底に刺さった状態でみつかりました。橋を支える木材の一部であると考えられます。



田鎖車堂前遺跡調査区全域平面図

◆平成 26 年度調査

平安時代終わり頃の祭祀がおこなわれたとみられる溝を調査しました。意識的に壊された鉄製品や中国産磁器がみつかりました。

◆平成 27 年度調査

平安時代初め頃の祭祀をおこなったと考えられる遺構を調査しました。石敷きがあり、鉄製品と土器細片が多数みつかりました。

◆平成 27 年度調査

堀の東側で道路側溝と思われる２本の細い溝を確認しました。堀の手前で折れ曲がり、堀底の杭の方へ延びています。

4　遺跡の全体像

３年の調査成果をまとめると、この場所は縄文時代から集落として利用され、平安時代初め頃、閉伊地方の中心的な集落となったと考えられます。その後、平安時代終わり頃に堀を備えた有力者の居館として利用されますが、平泉で藤原氏が滅ぼされる頃、この居館も機能を停止するようです。その後、室町時代以降再び人が住み、江戸時代の農村へと姿を変えます。

5　さいごに

最後になりましたが、事業主体である宮古土木センターをはじめ宮古市教育委員会、近隣のみなさま、調査に参加していただいた作業員のみなさまには、日頃のご理解とご協力に御礼申し上げます。

歴史年表